

平成28年5月25日

地方創生ストリートミーティング【子育て世代編②】主な意見

1 子どもが生まれたときに、最初にいただけるゴミ袋がもう少しいただけたらありがたい。紙おむつなど大量にゴミが出るので。

→市長：ゴミ袋に関しては、ゴミの減量化を進めていくうえで、何年か前に有料化したところですが。これは環境問題とか関連する事業に充てさせていただいている。市民の皆さんにご協力いただき、ゴミの減量化が進みました。現在、新しい可燃物処理施設を作る計画があるが、平成18年のとき鳥取県東部地域で一日の処理能力が360トンの施設を作るということでした。有料指定袋を導入させていただいて、ゴミが減ってきて、今のところ3分の2の240トンの施設で大丈夫だということになりました。子育て支援と無理やりつなげて申し訳ないが、ゴミの減量化にご協力いただくことで、ゴミ処理にかかる経費が減らすことができました。そういったことを保育料の軽減とか子育て支援などに活用していけると思っております。この件につきましては、申し訳ありませんが、ゴミの減量化を進めていくという趣旨でご理解いただきたい。

2 日曜祝日に利用できる子育て支援センターなどがあれば。

→市長：同じようなお話を先月28日にもいただいたところです。いろいろなニーズがあると思われますので課題としてお伺いさせていただきたい。いろんな子育てのニーズがあるということを改めて認識させていただいた。

⇒【児童家庭課回答】

子育て支援センターは、未就園児のいる家庭への育児支援を目的として、公私立の保育園12か所に設置しているものです。

日曜祝日の利用は、保育園自体を開園することとなり現状では困難と考えます。

3 就職して1年が経たないうちに妊娠が分かったので、雇用保険がもらえなくて、1年間金銭的な負担が大きかった。雇用保険以外で少額でも支援があれば。

→市長：鳥取市単独では難しい面がありますが、雇用保険制度がそういう形になっております。雇用保険の問題というよりも、育児休暇とかその他有給の休暇制度に全体としてもっていくことが必要ではないかと思う。それぞれの事業所等で制度が異なっていることもあり、そういった休暇制度の充実を図っていくことが社会全体で必要。育児休暇が取りやすいような組織にしていかなければならない。子育て中でもそういった経済的な支援が必要だということを社会全体で考えていかなければならない。鳥取市だけでは難しいが事業所の方と一緒に子育てしやすい環境づくりを少し時間がかかるかもしれませんが、引き続き取り組んでいきたいと思う。

⇒【経済・雇用戦略課回答】

男女問わず育児休業が取得しやすく、本人の希望どおりの職場復帰ができる職場環境づくりが必要と考えています。市内企業と鳥取労働局、県などの関係機関と連携し、ワーク・ライフ・バランスの推進を図ります。

**4 上の子が保育園に在園しているが、同時在園でないと第2子の保育料が軽減されない
ので、同時在園でなくても支援があれば。**

→市長：もともと鳥取市の保育料は国の基準よりも全体で3割ぐらい低くしている。この度二人目のお子さんは所得制限で無料の方もいるが、鳥取市独自で2分の1を5分の1に軽減している。第3子以降は無料。これは引き続きできる限り軽減する方向で検討しているところ。第1段階として第2子、そして第3子以降のお子さんについてできる限り安くする方向で頑張っておりますので、引き続き検討していきたいと思います。

⇒【児童家庭課回答】

本年4月より低所得者世帯とひとり親世帯の第2子について、同時在園の場合は無償、同時在園でない場合は1／2とする軽減を行ったところである。また、低所得者・ひとり親以外の世帯の第2子についても、同時在園の場合は1／5とする軽減を市独自で行っている。

同時在園以外の第2子については、対象児童数も多く国・県の財政的支援がない現状では困難であると考えます。

5 10月に子どもが生まれたが、保育園の申し込みが11月で終わっていた。遅い誕生日でも入園できるようにしてほしい。

→市長：募集時期と申し込みをされた時期との関係で難しかったということであります。できる限り入園希望の方に対応できるように頑張っていきたいと思います。こういった状況であったか担当課のほうでお伺いします。

⇒【児童家庭課回答】

4月1日入所に関する入所調整（約1,000件）を12月～1月にかけて行うため、申し込みの期限を11月末としています。なお、4月2日以降の入所については、2月1日より受付を行っています。

**6 11月に出産し、4月入園の申し込みが終わっていた。待機児童ゼロとなっているが、
遠い保育園への入園は難しい。入園の決定が1か月前なので、早くわかれば対応を考
える時間がある。**

→市長：年度中途に希望の園に入れないというのは私も承知しております。昨年度から国全体で子ども・子育て支援新制度が始まりまして、多様化しているニーズにきめ細かに対応するよう、小規模な保育園なども設置できるように、少しずつ国の制度も変わってきて

おります。そういった制度をうまく活用して、鳥取市もできる限り年度中途の保育園の入園希望の方にこたえられるようにしていきたいと思ひますし、入れるかどうかの連絡が遅いことにつきましてはできる限り改善をさせていただきます。

⇒【児童家庭課回答】

入所の調整に当たっては、保育を必要とされる保護者の事情により優先順位をつけ、園の入所状況を確認しながら調整を行っており、より保育の必要性が高い児童が入所できない状況を避けるため、1ヶ月前からの調整とさせていただきます。

7 医療費助成が18歳までになったが、中学まででいいから無償にしてほしい。兄弟が安来市にいるが中学まで無料。高校生になるとそんなに病院に行かない。小さいときに負担が減らせればと思う。

→市長：高校生まででなくていいから中学校までで、もう少し負担を軽減せよ、無償化すべきではないかという、そういう軽減もありかなと思ひます。この度の、高校生までというのは、年齢の低いお子さんを重点的に無償にしていくなど、いろいろな考え方がある中で鳥取県はまずは18歳、高校3年生までを医療費助成の対象としていったらどうかということで、県下の市町村も賛同して取り組んでいるところです。これが最終形ではありませんので、皆さんのご意見を伺いながら、軽減については引き続き検討し続けていきたいと思ひます。小学校まで、中学校までと段階的に広げてきた経過もあり、少しずつということでご理解いただきたい。

⇒【保険年金課回答】

子どもの医療費を無料化することによって受診が促進されることや、小児科医の疲弊を招き医療機関が対応できない状況などが懸念されることから、一定の自己負担は必要という県・市町村の共通認識のもとで18歳までの対象拡大を行ったところであり、無料化に踏み切ることは困難。（鳥取県はこれ以上の拡充は困難と明言している）

※ 全国市長会では、今後の子どもの医療費負担の方向性について、「自治体間で医療費助成制度拡充を競うのではなく、国の責任において子どもの医療に関わる全国一律の制度を構築すべき」と要望してきたところ。こうした地方サイドの声を受けて厚労省において「子どもの医療制度のあり方に関する検討会」で議論されてきたが、1億総活躍プランには盛り込まれなかったため、今後も引き続き要望していく。

8 子どもとおじいちゃん・おばあちゃんが遊べる施設がほしい。わらべ館とかあるが大人は有料になってしまう。無料でどの年代でも遊べて、雨の日でも遊べる屋内施設があれば。昔の遊びに触れられるような施設。また、施設の近くにバスの停留所があれば車で行かなくてすむ。

→市長：おじいちゃん、おばあちゃんと一緒にというのは大切なことだと思います。子どもにとっても高齢者の方にとってもいいですし、子育てをするうえで、いろいろな経験を持

っておられるので非常に参考になる。なかなか今、二世世代三世代で生活されるケースが少なくなってきた。施設をとということもあるが、そういった機会をどうやってたくさん作っていただけるのか考えていけたらと思っております。施設としては少ないが、東郷地区の公民館では保育園と公民館がつながっていて、高齢者も集まったり、子どもたちも遊びに来たりということで、一緒に過ごせる施設もあります。これから保育園や公民館等をつくる場合に考えていきたいと思えます。複合化といいますですが考えていきたい。

バスの停留所のお話もありましたが、なかなか難しい課題である。公共交通をいかに維持していくかというのは大変であります。鳥取は車を使用される方が多いということもあり、路線バスの便数が減ったりしています。市街地では100円バス「くる梨」を3コース走らせております。将来はもう少し充実していくことを考えていきたい。

9 授乳スペースのある施設が少ない。イオンとかにあるが土日は一杯。あげたいときにあげられない。オムツ替えできるところも増えたらいい。

→市長：（8，9，10のご意見を一括して回答。9については回答なし）

10 健診が午後からが多い。子どもが午後ぐずることが多い。午前中の時間帯にあわせていただければうれしい。

→中央保健センター：健診は開業しておられる小児科医さんや病院の小児科医さんをお願いしており、午前中はほとんど診察されている。昼の休みをお願いしているので、なかなか難しい面がある。ご理解いただきたい。

→市長：ご意見として承らせていただきたい。

⇒【中央保健センター回答】

ご指摘のとおり、乳幼児健康診査の時間帯はお子様の生活リズムを考えるとお昼寝の時間を外した午前が望ましいと思えます。

しかし、午後に設定している理由は、東部医師会や東部歯科医師会の先生方のご協力をいただいている関係です。鳥取県立中央病院・鳥取赤十字病院などの総合病院や開業されている小児科の先生方、歯科医の先生方は、医療機関での診療でお忙しい中を昼休みの時間を利用して御協力をいただいているのが実情です。

現状では改善が非常に困難な状況にありますことをご理解いただきますようお願いいたします。

乳幼児健診の中でお子様の子育ての悩みが少しでも軽減され、保護者のお気持ちを受け入れられるよう、受診者数に合わせた職員配置や待ち時間が短縮されるよう職員間で調整するなどの工夫をして、より良い健診を目指していきたいと考えています。

11 上の子のとき、月1回シルバー人材センターと子供がふれあう場があった。大変よかった。回数を増やしてほしいのと、告知が少ないのももっと知らせてほしい。

→市長：子育て中の皆さんからそういった機会が持てるようになったらいいなというお話がいただけたということはお伝えします。高齢者の皆さんも非常に喜ばれると思います。シルバー人材センターは高齢者の皆さんの生きがいつくりという目的もありますので、子どもたちとのふれあいもできる限り持っていただけるようお伝えします。

⇒【経済・雇用戦略課回答】

核家族化が進む中、シルバー人材センター会員の豊富な知識と経験を生かしたそのような交流事業は、子育て世代にとって大きな支えとなる取り組みと考えており、いただきましたご意見は、シルバー人材センターにお伝えしました。

12 チャイルドシートの購入補助があったら助かる。

→市長：検討ができないか考えてみたいと思いますが、難しいかと思われます。

13 任意の予防接種にも補助していただきたい。

→市長：4月28日にもそういったご意見をいただいております。少しずつ負担軽減等に取り組んでいるところでございますが、一挙には難しい。これからもできる限り負担が少なくなるような取り組みをしてまいりたい。

⇒【中央保健センター回答】

子どもの予防接種は、国において定期の予防接種とされたものは、全額公費（市費）負担で受けていただくことができるようにしています。また、就学前の乳幼児のインフルエンザ予防接種には、費用助成を行っています。それ以外の定期でなく任意の予防接種は、助成等は実施しておりません。（国が安全性有効性等を検討し定期となっていないため）

なお、B型肝炎予防接種は、今年（平成28年）10月に定期予防接種として開始される予定で、本市も遅れることなく実施できるよう事務を進める準備をしています。（9月補正または、既定予算対応で年度末補正）

おたふくかぜ及びロタウイルスについては、国で定期化に関して検討しているが現在も検討中です。

（前回（4月28日分）回答と同じ）

14 公園に遊具がなく殺風景である。安全面とか事故のこともあるが、さみしい。

→市長：安蔵の公園の遊具も老朽化で危険な状況のため使用していただけていない。遊具の安全性を確保していくのがなかなか難しい面がある。これからは遊具の設置というのは積極的に鳥取市としてやっていくということはないので、自然の中で遊んでいただくということでご理解いただきたい。やはり安全面で難しい。

15 子育ての情報が取りにくい。町内会に入っていないので市報が届かない。ホームペー

ジの充実。パソコンでなくスマホで見れるようにしてほしい。

→**市長**：4月28日にも子育ての情報が分かりにくいという意見をいただき、早速市役所の関係課で検討しています。市報については、町内会に加入されていないと届かないということで、公民館でありますとか、庁舎にも置いておりますので、ご活用いただければと思います。

⇒【**児童家庭課**】

鳥取市の子育て支援に関する情報は、鳥取市子育て支援ホームページ「とっとり子育てネット」で見ることができます。パソコンだけでなくスマホでも閲覧できます。

⇒【**中央保健センター回答**】

【改善】

現在、子育て情報は母子健康手帳交付時、産院退院時、赤ちゃん訪問時、乳幼児健診時、転入時等様々な機会をとらえてリーフレットやパンフレット等で情報提供している。そして、今年4月から鳥取市の子育て情報を一冊にまとめた「鳥取市子育て手帳」を作成し配布している。また、ホームページも随時更新し最新情報の発信に努めている。

しかし、情報が多いため、かえって選択しにくいといった面があることも否めない。それぞれの親子の求めることは何かを丁寧に聞き取り情報提供していくよう努めていきたい。

(前回(4月28日分)回答と同じ)

16 県の管轄かもしれないが、ハートフル駐車場は子どもが1歳半まで使えるが、そういった情報を母子手帳をもらうとき教えてもらえたら周知が広がる。

→**市長**：少し周知が不十分ということがありますので、母子手帳の交付時とか妊婦健診のときなどに制度のことなど周知をさせていただきたいと思う。

⇒【**中央保健センター回答**】

妊娠7カ月から利用できるということから、母子手帳交付の際にご案内のチラシをお渡しし周知を図っていきたいと考えます。

また、県の担当部局にご意見をいただいた旨報告し、積極的なPRをお願いしたいと考えます。

17 健診の時など駐車場が少なくて困る。

→**市長**：新しい市役所の庁舎を建設することにしております。駅南庁舎の部署もできる限り新しい庁舎に入ります。駅南庁舎のほうは保健所と保健センターを持ってきたりします。新庁舎の駐車場については従前より台数が確保できるよう、設計の中で考えております。新しい庁舎で200台。駅南庁舎のほうは変わりませんが、かなりの部署が新しい庁舎に行きますので、もう少し余裕ができるかと思われます。できる限り確保したいと思います。将来足らないなということであれば、また別の方法も考えていく。鳥取駅

の周辺に公共駐車場を作っていくという選択もあるのかなと思います。

⇒【中央保健センター回答】

乳幼児健診やＢＣＧ接種の会場のさざんか会館駐車場と駅南庁舎の駐車場が同時に満車になることがあることは認識しています。確定申告時期など、混雑があらかじめ予想されるときには、東部医師会や東部歯科医師会に依頼して駐車スペースをお借りし案内するようにしています。

⇒【保健医療福祉連携課回答】

新本庁舎に現在の駅南庁舎の各部署が移り、保健所・保健センターなどを駅南庁舎に配置したあとは、駐車場に余裕ができると思われますが、不足するという状況があれば対応を考えていくことにしています。

18 県外から来たが、幼稚園探しに苦労した。知り合いもいなくて、相談所とかあれば助かった。

→市長：児童家庭課というところがございますので、電話でも来庁いただいても結構ですので、お気軽にご相談ください。

⇒【児童家庭課回答】

子育て支援センターなどを中心に情報提供の充実を図る。

「とっとり市子育て手帳」の活用